

# NJ素流協 News

令和4年12月10日

第215号

令和4年12月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



組合員から多くの参加がありました

## ノースジャパン素材流通協同組合 令和4年度 第1回林業講演会 『林業機械の現状』を開催!!

NJ素流協は12月1日、岩手県盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて、今年度の第1回となる林業講演会「林業機械の現状」を会場・オンラインの併用で開催し、会場では約60名、オンラインでは約20名が参加した。

今回の講演会は、林業機械メーカー及び販売店から7社を招き、最新の開発・販売機械等について情報発信していただく企画となった。

冒頭、鈴木信哉理事長より、「今年度の林業講演会の開催については、本当はもう少し早い時期を計画していたところだが、新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ計画したために、第1回が12月になってしまった。

当組合は素材生産業者の集まりであるため、組合員の役に立つ企画ということで、今回の「林業機械の現状」を開催することとした。全国機械展の開催地が、沖繩、北海道、大分と遠く、新型コロナの感染拡大もあり、東北からの参加も難しいことから、東北盛岡での機械メーカー・販売店の皆様のお

話を聞く企画とした。

また、発表者の皆様には、今年7月に当組合の青年部会が企画した「第2回げんき森林(モリ)モリフェスティバル」にも参加協力を頂いており、この場を借りてご紹介方々感謝申し上げます。

最後に、発表終了後は各社ブースを設けてあるので、こちらを質問、要望、コミュニケーションの場にご活用いただければと思う。」と挨拶が寄せられた(一条参与兼経営企画管理部長 代読)。

参加企業7社の講演について次頁よりご紹介する。

### 《参加企業》

- ▼日立建機日本株式会社
- ▼日本キャタピラー合同会社
- ▼イワフジ工業株式会社
- ▼住友建機販売株式会社
- ▼コマツカスタマーサポート株式会社
- ▼緑産株式会社
- ▼株式会社サナース

講演 1

日立建機日本株式会社

顧客ソリューション本部  
産業ソリューション部

営業課長 野口 和也 氏



野口課長

◎林業パッケージ仕様機

グラップル、ハーベスタ・プロセスサ、スイングヤーダ等の各アタッチメントを取り付ける為、本体油圧回路の改造、各部補強等を行った仕様機としている。

◎ワラタ社ハーベスタと

バリユーバッキング

フィンランドのワラタ社製ハーベスタを平成26年から導入している。『iLogger』バリユーバッキング機能は、コンピュータに径級、長さ、価格情報を入れることにより、幹一本が最大の値段になるように、

自動的に採材長さを決めてくれる「最適採材」の機能である。

この機能のメリットとして、オペレータの勘に頼っていた採材の最適化、オペレータの負担軽減、操作時間の短縮、オペレータの育成等が考えられる。

将来的に、需要者からのオーダーを採材に取り入れることがコストダウンに繋がり、用途に合わせた一般流通の長さ以外のニーズにも対応できるのではないかと考えている。

◎ハーベスタ専用機『FL135

USL-6テレブーム機』

事故が多い伐倒作業において機械伐倒を少しでも増やせるよう独自開発した。最大作業半径は11・4mでテレブームはフィンランドから輸入して取り付けている。バリユーバッキング機能にも対応。運転席前窓にはチェーンショット対策としてポリカーボネートを採用し安全性を高めている。

この1台で、林業ICT、高機能と安全、生産性の向上、チェーンソー伐倒事故を減らすための機械伐倒の

実用化を図る。



FL135USL-6テレブーム機

講演 2

日本キヤタピラー合同会社

商品統括部 営業支援課

課長 坪井 正博 氏



坪井課長

◎ベースマシン『Next Generation』シリーズ

『312Fテザー』

従来の油圧パイロット制御に変えて電気と油圧のハイブリット(EH)操作を採用していることが最大の特徴である。ブーム・アーム・旋回のスピード、レバーに対する反応速度も好みに合わせてチューニングできる。

0・45クラスに搭載している「オーバードローミットコントロール」はポンプの流量を調整し連動性を向上させる仕組みとなっている。

◎『KETO KARATE』

ハーベスタ

最大の特徴はアキュムレータのシステムにより送材スピードがアップし、枝払いも強力にできる点である。その他に、これまで3連だったトラックを5連に変更、バックナイフの標準装備、トングの大型化を中心に改造されている。オプションの「360度ローテータ」により、従来のホースを二分割してホースの絡みを気にすることなく作業することができる。

◎ウインタアシスト型林業機械

『312Fテザー』

急斜面で稼働する林業機械を補助



312F テザー

するためのウインチアシストをする機械で、株式会社サナース、住友林業株式会社、日本キャタピラー合同会社の3社で共同開発した。テザーというのは牛や馬を繋ぐ縄という意味である。

導入の効果として、急斜面における作業での生産性向上、車両の転倒・転落防止といった安全性の確保、土壌かく乱の抑制の3つを挙げる。

重機のアシストだけでは汎用性が狭まるので、機械の多様性を模索するのが今後の課題である。

講演3

イワフジ工業株式会社

営業部 営業企画課

課長 鈴木茂 氏



鈴木課長

◎ハーベスタ『GPH-45A』

クローラにメジャリングユニットを組み込み測長の安定化を図っている。送り装置はスパイククローラでガッチリ木材に食い込むので計測が狂わない。

◎プロセッサ『GPI-35V2』

従来のV型には取り付けができなかったスタッドローラを、モーター変更により使えるようにしている。

◎GP・WAVE

携帯通信網を経由して遠隔地で稼働中の林業機械の材積データを取得する。

◎『フォワードU-E』シリーズ

電気式のステアリング制御システムを搭載しており、エンストを防止するアンチストール、エンジン回転数とは別に調整ができるスピードダイヤル等が特徴である。

また、ローカル5Gを利用して林地内で遠隔操作する実証に取り組んでいる。



フォワード U-4E

◎架線集材システム

『BLG+YRシリーズ』

安全な場所から荷掛け、搬送、荷下ろしが可能で、架線式グラップルが索の上を移動する時に発電し、その電気でグラップルを開閉する回生充電式となっている。

講演4

住友建機販売株式会社

営業本部 応用機担当

主査 見坂正義 氏



見坂主査

◎林業セグメント機械

最新の林業機械カタログに掲載している機械は、フィンランドのケスラー社のハーベスタが中心で、当社

油圧集材機は2胴1エンドレスで、広範囲の横取り集材が可能。

架線式グラップルと油圧集材機を1台のラジコンで操作できる。

従来は集材だけで3人必要だったのが、集材オペレーター+造材オペレーターの2人に削減できる。さらに、全て1人で行う「集材・造材マルチワークシステム」の実証を行っている。

また、中継器を使った長距離映像通信にトライしている。

が品質保証、部品供給すべてに責任を負う。一方、カスタム林業機械カタログに掲載している機械は、本体を当社が保証し、アタッチメントは各メーカーが保証するものである。

最近では東北管内を中心にポンセ社のハーベスタ「H6」の人氣があり、来年3月には新たにログセット社のハーベスタ「TH55」を取り付け予定である。

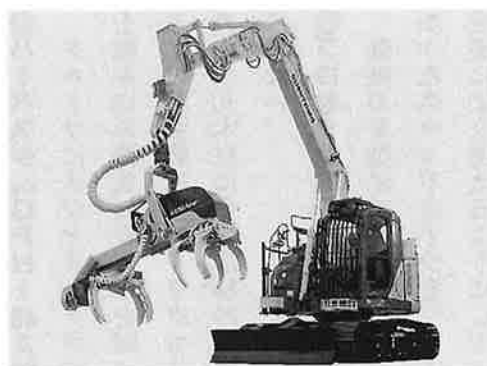
各社でテレスコピックアームの宣伝をしているが、当社では、山形県の有限会社フォレストが取り扱うAFMのアタッチメントを使用している。3段テレスコピックで作業半径は14mである。フィンランドでは一般的となっている「伐倒ソー」も装着できる。

◎開発の現状

開発時のセールスポイントの一部として、あらゆるエンドアタッチメントに対応したベースマシン、安全性・経済性の追求を設計のコンセプトとしている。

また、材割れ防止と燃費向上のための「オートアクティブソーモード」

搭載、どのアタッチメントを付けてフル作業してもオーバーヒートしない事、ストローク式ハーベスタとローラ式ハーベスタそれぞれの流量設定等をポイントとしている。



ストロークハーベスタ KESLA 25SHII 仕様機

◎林業関係展示会情報

フィンランドで開催された「Fin METKO」の視察レポートによると、一般的にシヨベル式はほとんど無くホイール式が一般的である、フィンランドではテレスコピックが最近流行っている、フィンランドの林業機械シェアはポンセが50%近いという報告であった。

また、新規性を持つ展示としてポンセの電動フォワーダが展覧された。

講演5

コマツカスターマーサポート株式会社

建機・リフト事業部

商品・分野サポート部

商品分野グループ

担当課長 篠宮努 氏



篠宮担当課長

◎ハーベスター 『C93』

コマツの子会社であるスウェーデンのコマツフォレストから輸入し、国内向けの仕様にして販売している機械である。

ヘッドのチルト角の拡大(25度↓40度)、日本専用の新設計した曲線型ロングフロントナイフの採用、ソーが当たった瞬間も力を落とさない「コンスタントカット機能」、確実にグリップするリブ型送材ローラーの採用、よりスムーズに枝払いできる富士山

型トップナイフの装備等により作業性・生産性の向上を図っている。

また、新測尺ホイールの採用やフロントナイフ・送材ローラーの高硬度化等により耐久性の向上を、給脂箇所レイアウト変更により整備性の向上を図っている。

さらに、ナイフの圧力や送材ローラーのスピード等をモニター操作で変更可能な「MaxiXplore (マキシエクスプローラ)」の搭載や、来年度発売予定の造材データの見える化アプリ「ZOUZAIウォッチャー」との連携等、ICT化も図っている。



ハーベスター 『C93』

◎『PC138US-11

### ロングリーチグラップル仕様

トラック搭載型で実績がある。パルフィ  
ンガー製テレスコ式アームを採用し、  
最大作業半径12mを実現する。

標準ではグラップルが装着されて  
おり、オプションで、伐採・剪定が  
可能なフェリンググラップルと、ア  
タッチメントの変更が可能なクイッ  
クカプラを揃えている。

また、安全のための機能として「K  
om Vision 人検知衝突軽減シ  
ステム」を導入している。

### 講演 6

#### 緑産株式会社

営業本部 環境システム部

係長 望月 亮介 氏



望月係長

#### ◎『ウッドハッカー Mega』

切削チップをつくるチップパーであ  
り、当社一番のヒット商品である。

独自のオーブンドラム方式の切削機  
構と内蔵スクリーンにより、均一で  
高品質なチップを効率的に生産する。  
コントローラーが「イージーグリー  
ンシステム2」に仕様変更され、油  
圧システムの効率化、投入材料ごと  
の細かい数値設定が可能となった。



ウッドハッカー Mega

#### ◎横入れ式汎用木質破砕機

##### 『アクスター』

オーブンドラムで、固定式ツール  
(切削系)と可動式ツール(打撃系)  
を選択することができる。

一番の特徴である異物回避機構は、  
異物が入った時に、心臓部である破

砕ローターを守るために異物を受け  
流しながら強制的に排出する仕組み  
である。

#### ◎堅入れ式低速2軸木質破砕機

##### 『クランボー』

投入口が非常に大きく、2本の破  
砕ドラムの駆動がそれぞれ独立して  
いるのが特徴である。

スクリーンの台座であるクレード  
ルが外に出る構造でメンテナンス性  
が高い。

#### ◎選別機『マルチスター』

特別機構「クリンスター」により  
通常稼働させながらスクリーン部分  
を掃除する機構になっている。

#### ◎『MMワンダーファルコン』

MMフォレストテクノック社(オー  
ストリア)が、高効率に生産性を上  
げて、かつ安全な作業ができる機械  
をコンセプトに開発した3線式タワー  
ヤードである。

最大で2.54トンまでの吊り上  
げが可能。スカイラインの最長は6  
00mだが、実際に張れる長さは綺  
麗な斜面で500mが最大となる。  
クローラ自走式は日本向けに当社

とメーカーで協議して開発した。

### 講演 7

#### 株式会社サナース

営業部 営業サポート

里井 浩太 氏



里井氏

#### ◎4輪多関節型作業機械

##### 『スパイダーM545X』

スイスのメンツィムック社のスパ  
イダーは、簡単に言えば油圧ショベ  
ルのような機械だが、脚が4本あり、  
それぞれ別々に操作して障害物を乗  
り越えたり、急傾斜地の作業や、深  
さ1m程度の水中作業が可能になっ  
た機械である。

最大の特徴としては、圧倒的に優  
れた登坂能力である。傾斜地で4本  
の脚部分をそれぞれ自在に操作しな  
がら常に接地させ、旋回体部分を常  
に水平に保つことができる。テレス

コアームが付いているので、これを自在に使い、45度の斜度でも作業をすることができるとのこと。



スパイダー M545X

林業現場におけるスパイダーの活用というところで利点をまとめると、まず、生産性の面で、汎用機では侵入できないところで機械化が可能となる。二つ目に、安定の面で、労働環境に左右されない。三つ目に、安全の面で、傾斜地での伐木作業において安全なスペースの確保ができる。ということになる。ただ、決して良いところだけではなくて懸念事項はある。

懸念事項の一つに操縦の難しさが

ある。油圧シヨベルもレバー2本で巧みに操作されると思うが、スパイダーは脚4本の操作もしなければならぬ。脚4本の上げ下げだけでは無く、横に開く作業もある。ましてや、操作するのが、直接地面に脚を突っ張っているものなので、操作ミスが危険を伴うものになる。ただ、それを鑑みても林業に関する知識を持った方が、このような機械をしっかり使いこなすことになって、まさに鬼に金棒ではないかと思う。

講演終了後には、各社ブースを開放し、機械に関する詳しい説明やカ



各社ブースで情報収集

タログ配布、情報交換の時間を設けた。多くの来場者が目当てのブースで情報収集している様子が見られた。

### トピックス

#### NJ素流協 令和4年度 第6回 理事会開催

令和4年10月31日、盛岡市内において第6回理事会を開催いたしました。

組合員の新規加入について審議・承認をいただき、上半期事業等の報告を行いました。

#### 鹿児島県からの研修を受け入れました

NJ素流協は、11月7日と8日の2日間にわたり、鹿児島県チップ協会から6名の方の視察研修を受け入れました。

初日は、岩手県内のバイオマス発電所・チップ生産現場を視察しました。2日目は、盛岡市にて、喫緊の課題となっている「林地残材(枝条・

短コロ)の集材について」の研修を行いました。

#### 富士大学公開セミナーが開催されました

富士大学公開セミナー「グリーン社会の構築にむけて」が、11月4日に盛岡市で盛況(参加者152名)開催されました。

公開セミナーは、織田林野庁長官による基調講演「グリーン社会の構築に向けた林野庁の取組について」を始めに、トヨタ自動車東日本(株)CN(カーボンニュートラル)推進室長兼ものづくり領域長梅原武氏による「カーボンニュートラルに向けて」、釜石地方森林組合参事高橋幸男氏による「地域に根付き魅力を発信していく地場産業としての森林業」の講演があり、続いて、岩手県農林水産部森林保全課県有林担当宮本雅子氏から「県有林におけるJ-クレンジットの取組」に関する情報提供がありました。

講演終了後、岡田富士大学学長の司会によるパネル・ディスカッション

ンがあり、カーボンニュートラルの実現と既存政策の在り方、地球温暖化対策において吸収源対策・森林整備の重要性、Jークレジット制度への期待とその懸念など活発な質疑応答が行われました。

セミナーの最後に、岩手県知事・達増拓也氏からWEBによるメッセージが寄せられました。

このセミナーの様子はオンデマンドでネット配信されていますので、富士大学のホームページをご確認ください。

**林業アカデミー・林業  
大学校で研修を実施**

当組合では、各県の林業アカデミー及び大学校等における林業就業に向けた研修に積極的に協力しています。

◎いわて林業アカデミー

10月6～7日の2日間、サポートチームの一員として木材流通に関する講義を担当し、鈴木理事長による講義、組合員である株式会社古里木材物流及び有限会社松田林業の中間土場等視察、MG企画の薪生産工場

視察を行いました。

◎青い森林業アカデミー

11月10日、青い森林業アカデミー（平内町、青森県産業技術センター林業研究所内）において、鈴木理事長が木材流通に関する講義を行いました。

◎山形県立農林大学校

11月7日、山形県立農林大学校の視察研修を受け入れ、鈴木理事長による当組合の取り組み及び木材流通に関する講義、株式会社古里木材物流の中間土場等の視察を行いました。

研修実施にご協力いただいた組合員の皆様に厚く御礼申し上げます。

**鈴木理事長が高知県で  
講演を行いました**

鈴木理事長は、11月5日、高知県で開催された「高知県緑の環境会議」にて、「国産材時代・ウッドショック後の素材流通の課題」と題して講演を行いました。

**宮沢賢治の**

**『度十公園林』について**

令和5年に岩手県で開催される第73回全国植樹祭の式典において、宮

沢賢治の童話『度十公園林(けんじゅうこうえんりん)』が朗読されることになりました(詳しくは岩手県HPをご覧ください)。

この作品が発表されたのは1934年、賢治が亡くなった翌年です。かつて、賢治は座重謙氏のペンネームで創作していたことがあり、作品の草稿に座重謙氏の記載があることから、度十は賢治自身のことであろうと考えられています。

『度十公園林』には、ずんずん工業化が進む当時の社会に対する警鐘と次世代に森林を引き継ぐ思いが込められており、この思いは「羅須地人協会」の設立目的ともいわれています。

国語の教科書にも採用されていたので、ご記憶にある方も多くいらっしゃるかと思えます。

この物語を林業技術的にみますと、造林適地、施業適期、枝打ちによって林内の相対照度が高まり、下層植生が繁茂する豊かな森林になること

などの専門知識がちりばめられています。

次に、物語から度十公園林の施業履歴を検証すると、粘土層の草原にスギを植栽したために、樹高は8年生で約9尺(2.7m・地位が低い)、さらに、「えだうぢさなのか?」と農民のフェイクに乗せられて、8年生で一ぺんに枝打ちをした影響もあって(枝打ち後の残枝は3〜4本)、約28年生の樹高は1丈(3m)ぐらいであり、樹高成長は極めて悪いものとなっています。

文中には「その杉にはとび色の実がなり」とありますから、成長の悪い杉には若い林齢で実がつくことも賢治は承知していたようです。

そして、物語の最後は、このスギ林について、次のように締めくくっています。「そして林は度十の居た時の通り雨が降ってはすき徹(とほる)冷たい雫をみじかい草にポタリポタリと落としお日さまが輝いては新らしい綺麗な空気をさはやかにはき出すのでした(原文のまま)」。

「森林浴」が提唱されたのは19



82年ですから、賢治は、それより半世紀も前に「森林の効用」の感覚を表現していました。



花巻市の小学校にある虔十公園林の石碑 (2022.12.10撮影)

### 群馬県で職員視察研修を行いました

NJ素流協は、11月中旬、群馬県において職員の視察研修を行いました。コロナ禍の影響で、県外での視察研修は約3年ぶりです。今回は、群馬県沼田市で4か所の事業体を視察しました。

◎林野庁 関東森林管理局 利根沼田森林管理署

利根沼田森林管理署の事業内容や、収穫・販売の状況についてお話を伺いました。また、群馬県・岩手県そ

れぞれの素材動向の現状等を意見交換いたしました。

◎渡辺林産工業株式会社

工場にて、原木からチップやおが粉を製造し、袋詰めして商品として出来上がるまでの現場を視察しました。

◎森産業株式会社

事務所にて、菌床栽培シイタケの製造の流れを伺った後、徹底した温度管理や殺菌による製造ラインを視察しました。

◎林野庁 森林技術総合研究所 林業機械化センター

林業機械化センターでは、主に行政の方を対象に林業機械の研修を行っています。事業内容を伺った後、林業機械の展示棟を見学し、林業機械がどのような形に変化していったのか歴史を体感しました。

視察を受け入れてくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナ発生以来実施できていない、組合員参加の先進地視察研修についても、実施できるよう邁進するとともに、新型コロナ感染

の収束を心から祈っています。

実施したいな!! そうだよね

## お知らせ

### 秋田県で「第3回スギ高齡樹原木展示即売会」

スギ高齡樹原木展示即売会は、毎年1月下旬に、秋田県木材産業協同組合連合会の主催で開催されています。

第3回目となる今回の展示即売会は、秋田県銘木センターの「第28回東日本銘木展示会・初市徳市」と併催され、組合員様からの出品もお願いする予定です。



よろしくお願ひします

**注目!** 備えていますか? くもしもの時の救急用品く

労働災害が発生してしまつたら、傷病者の早期発見と迅速な救護が不

可欠です。

厚生労働省「林業の作業現場における緊急連絡体制の整備等のためのガイドライン」には、連絡体制だけでなく、作業現場に持ち込む救急用品についても内容を定めて関係労働者に周知させることと記されています。

必要な救急用品は作業現場に携行していますか?

NJ素流協事務所でも全車両に救急箱を備えています。もしもの時、適切な応急処置が出来るよう、今一度ご確認ください。

#### 【救急用品の例】

- 衛生用具：三角巾、包帯、ガーゼ、ばんそうこう、ティッシュ、ピンセット、はさみ、ポイズンリムーバー、体温計など
- 消毒液：消毒用アルコール、殺菌消毒液（マキロンなど）など
- 薬品：胃腸薬、抗ヒスタミン軟膏、錠剤など

その他時季により携行した方がよいもの：エビペン、暑さ指数（WBG T）計など



# ちよつと気になる木の話

77

## 『木へん』の漢字アラカルト — やっぱり木へんは木に戻す —

木へんの漢字はいっぱいある。代表的樹種名である杉、桧、松は当然である。冬が来て、今木へんで考えるのは春夏秋冬の椿(つばき)、榎(えのき)、楸(はぎ)、柗(ひいらぎ)かな。おつと？秋の代名詞の「はぎ」は、草冠の萩だろー！じゃあ木へんの秋は…楸(ひさぎ)である。あまり良く知らないよねえ？花言葉は「澄んだ心」この時期の空気が一年の中で一番きれいになると言われている。でも、山の木というよりは、何か家から見える庭木に近い感じである。

さて、本題に入ろう。樹種名でない木へんの漢字は、木が使われていたもので、家に関係する材料や備品に多い。建築材料としては、構造材の中心となる柱、梁・桁である。加えて、板、棚、柵となる。備品では、机、椅子、(風呂)桶、(酒・みそ・つけもの)樽、(水)槽となる。小物でも、杯(さかづき)、枡(ます)、椀(わん)、杖(つえ)等色々ある。

現在、総て木が利用されているかといえば、そうではない。机、椅子、桶、樽をはじめ、鉄やプラスチックが多く使われている。でも、熱伝導率や体への柔らかさを考えれば、木に戻るチャンスは多々あると思われる。

こうした中、意外なものもある。「枕」である。私の年代でも枕は木ではなかった。「もみ殻を布でつつんだものである。木の枕だと高くて痛くて寝られない。でも枕木は、今だに健在である。鉄道の枕木は、橋梁やポイント部分では「今だに…」である。一時期、コンクリート業界は、枕木をマクラギに表記替えて、木のイメージを消そうとしたが、やはり枕木である。両方の漢字ともに木が入っているから強い？戦後一世を風靡した枕木業界、電柱業界は両方ともに「木へん」なのである。電

柱も、今だに需要がなくなったわけではない。旧い狭く曲がった住宅密集地は、コンクリート電柱だと、1本傷つくと両側何本も被害を受けるので、木製を使っている。

離島も運賃絡みで木製が使われている。そして、コンクリート電柱を一時的に置くには、主たる製品である電柱を傷つけないように木の丸太が仮置き用に使われている(船便のダンネージと役割は一緒)。

次に意外なのは「校」である。誰もが、学校を考える。とすると校舎とは、木へんに拘って、「木と交わる」木造でしょう！となる。当然、机も椅子もである。非住宅分野の中で、学校の木造化、木質化が先頭を走っているのは、「木へん」でアクセラを踏んでいるのかもしれない。

最後は、村である。村が木へんだったか？市や町には木へんがついていない。村の漢字とはどういう意味なのか？一般的には、木材と人が集まる場所とのことである。最初から木材と人がセットである。村出身の私としては、うれしい漢字の意味である。

あっ！忘れていた。建築の築の字である。竹冠だが、下は木である。築の字は、木と音符の筑を発音して、「ちく」になるとされている。竹かごで土を運び、木で地盤を強固にして城を築いたのかも知れないが、建築は、やっぱり、木造・木質推進すべきは木へんの流れかも知れない。私の思い込みかも…？

終わりに、木の漢字は、象形文字としては左図の通りである。



真つすぐな幹から、枝は上に元気良く、下にはしっかりと根を張っているイメージである。元氣一杯に育てた木を、『木へん』の漢字である人の集まる村々の建築物に使い、机、椅子、風呂桶等木製にして、豊かな脱炭素、循環型社会に向かっていきたい時は「今」である。

令和4年11月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	10,858	102.1	90.8	9,641	107.5	82.1	20,499	104.6	86.5
カラマツ	5,869	113.8	223.4	370	131.3	23.8	6,239	114.7	149.2
アカマツ	1,560	56.5	50.3	204	41.9	26.8	1,765	54.3	45.7
その他	0	*	*	1,311	353.4	196.9	1,311	353.4	196.9
合計	18,287	98.6	103.4	11,526	114.0	78.3	29,813	104.0	92.0

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	7,660	174.8	125.0
カラマツ	2,902	112.8	66.3
アカマツ	2,532	158.4	126.3
その他	0	0.0	0.0
合計	13,094	152.1	102.9

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m <sup>3</sup> )	製材・集成材・その他用 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	燃料用 (t)
スギ	102,588	67,208	169,797	35,661
カラマツ	32,475	14,166	46,641	21,993
アカマツ	17,880	1,560	19,440	13,147
その他	7	3,903	3,910	602
合計	152,950	86,837	239,788	71,402
目標達成率 (%)	63.7	49.6	57.8	52.9
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和4年11月の需給動向】

- 各合板工場の受入制限は当面続く状況。また先月は秋田の新材木工業（合板工場）で火災が発生した影響で一部地域では原木の行先が無くなり、供給過多の状況が続いている。
- 集成材工場は海外製品の影響を大きく受け、価格競争で厳しい状況におかれている。

次は、東北のケヤキ3本である。えっ！ケヤキ3本だけ入札かけるの？と疑問であったが、当時には別の事情があった。なんと立木の単価が100万円越えで、地元の製材所が落札したのだ。普通のスギ製材なので、おかしいと思いついたら、実際の購入者は中京地区の銘木屋さんで

あった。もちろん、中京地区の有名な銘木市で、遥かに高い価格で販売された。岩けの赤ケヤキである。最後は、九州の物件で、「驚き」の単価である。そんな単価で売れるはずはないと事情を調べた。なんと「その他N」と書かれた木は、実はカヤの木で、前から目をつけていたカヤの木だった。偏心していれば、四方柱の基盤の最高級品である。優用樹種は樹種名を記載することとなっているが、カヤは少ないので、一般的ではない。カヤを「その他N」でも物件明細上は仕方ないかもしれないが、このように、とんでもなく予定価格はね上がるのは、超銘木が立木販売物件の中に混入した場合である。今、標準地調査やデジタル調査で、これがわかるかと言えはるが、一度は、販売物件を見て回ることも、やはり必要である。それにしても、別の意味で感心するのは、銘木屋さんの情報収入能力である。どうしても欲しい木を手に入れるための全国ネットワークの力には、いつも度肝を抜かれる。我々も山を知らないといけないと思うところである。でも、この木が銘木かどうか、そもそも何の樹種か勉強が必要である。

耳からウロコ

立木販売の値開き率  
— 予定価格の10倍以上！ —

公売での立木販売が国有林、公有林では、普通に行われているが、通常は予定価格の110%、120%であり、100%で落札できれば、落札者は「しめしめ、本当に良かった」となる。しかし、10倍をはるかに超える例が実在した。北海道で、小さな物件だったが、10倍を超えた。しかも、買った人は、何と3本だけ伐って、あとはいらないと戻した（伐採権を放棄）のである。3本はウダイカンバ（マカバ）である。どうしても欲しかったので、入札し、3本とも元玉100万円超えて、元は取れたと後で聞いた。聞いて見ると、山で真っ赤々のマカバ優良材のエリアは、知ってるし、「こっそり現物を見て決めた」との話であった。

このように、とんでもなく予定価格はね上がるのは、超銘木が立木販売物件の中に混入した場合である。今、標準地調査やデジタル調査で、これがわかるかと言えはるが、一度は、販売物件を見て回ることも、やはり必要である。それにしても、別の意味で感心するのは、銘木屋さんの情報収入能力である。どうしても欲しい木を手に入れるための全国ネットワークの力には、いつも度肝を抜かれる。我々も山を知らないといけないと思うところである。でも、この木が銘木かどうか、そもそも何の樹種か勉強が必要である。